

社会教育指導員の部屋

2025.10月

人権同和課 社会教育指導員 吉澤 隆

望月解放子ども会の行事に参加して

望月地区の小中学校の子どもたちは、希望すれば誰でも子ども会に参加できます。この子ども会の基本テーマは、差別や偏見をなくすための「仲間づくり」です。普段の室内での学習とは別に、毎年1回野外学習として、市内または近隣市町村で野外での学習を行っています。昨年は、望月少年自然の家で災害時を想定した食事づくりを行いました。

さて、今年の野外学習は、「小海線に乗って野辺山のパラボラアンテナを見に行こう」です。令和7年8月6日の水曜日に実施しました。当日は、うすぐもりで、真夏の時期でも多少過ごしやすい環境でした。

望月地区に住んでいると、公共交通機関を利用する機会がありません。そこで、まずは鉄道を経験しようということで、中込駅から「小海線」の列車で日本一標高の高い駅を目指しました。うまくいくとハイブリッド列車に乗ることが出来るのですが、朝の早い時間に出てしまっていて難しかったようです。

今年のサブテーマは、「社会体験を広げよう」です。



日本一標高の高い駅

小海線での目的地、日本一標高の高い駅は野辺山駅です。駅前で記念写真を撮り、バスで野辺山パラボラアンテナに向かいました。この夏はアニメの聖地として人気が出て、本来の天文台の機能とは別の興味を持って訪れた子も、施設や資料を見学をして雄大な宇宙とのつながりを感じていました。

子ども会の「仲間づくり」にはどのような意味があるのでしょうか。差別や偏見のきっかけは、お互いの正しい理解が出来ていないことから起こるすれ違いや見くだしからの感情のこじれから起こる場合もあります。それをなくすための友達づくりです。学年を超え、小中学校の垣根を超えて、交流を深めることで、互いをよく知ることから、子どもたちが他の子どもたちを見守ることで、人権を認め合う気持ちが醸成されます。共に学び合い、遊び合うことでこの子たちの将来が、差別や偏見の無い社会の形成に結び付くことを願い、様々な体験を行っています。

小さな鉄道の旅、天文台の勉強、広場での食事会など、様々な体験を積み重ねることが出来る機会に、望月中学校の校長先生にもご参加いただき、人権同和課のスタッフ他、社会教育指導員3名も参加しました。



(野辺山宇宙観測施設の研修風景)

国立天文台「野辺山宇宙電波観測所」には、直径45メートルの電波望遠鏡のほかに、電波ヘリオグラフ、太陽電波強度偏波計、ミリ波干渉計などがあります。45メートルのアンテナが動き、角度を変えているところを見ることが出来ました。電波観測機器周辺は携帯電話やスマホの電波発信は禁止です。「機内モード」か「電源オフ」にしました。

最近は、アニメ「名探偵コナン」の舞台になったことで、官民そろって宣伝に力を入れ来所者が極端に増えているようです。南牧村では野辺山駅から施設までの無料シャトルバスが用意され、大勢の方が利用されていました。

一日の研修や交流も終え、同伴のお母さん方にもご協力をいただき、無事望月支所に帰ってきました。



なお、事業の実施に際して南牧村観光協会、南牧村役場の皆様にご協力をいただきました。感謝申し上げます。